

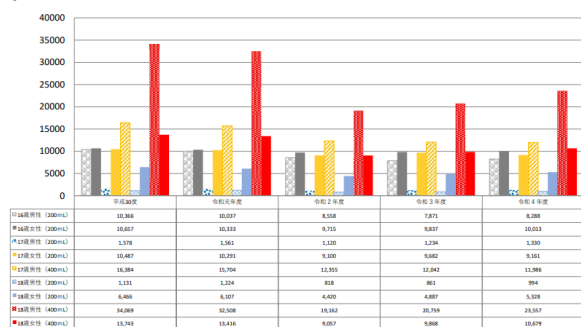
竹園高校生の献血意欲調査と売血制度復活の是非

S.H. <国際②ゼミ>

1.はじめに

現在、日本では輸血用血液製剤(病気の治療や手術で使用されるもの)を献血で賄っている。また、血液の中には生きた細胞が含まれるため、長期保存する方法や輸血用の血液を人工的に作る方法は未だ開発されていない。

そのため、手術が必要な人や大怪我をした人のために、献血により、常に新鮮な血液を供給する必要がある。しかし少子高齢化の影響で輸血用血液製剤を主に使用する高齢者の人口割合は大きくなっているのにもかかわらず、その輸血の供給を支える若者の人口割合が低下していることに加え(厚生労働省,2022)、若者の献血意欲も低くなっているため、血液供給が不安定化している。さらに、日本赤十字社の血液事業部献血推進調査会では将来的な献血不足を危惧している。図1は16～18歳の男女、献血方法別献血率を示したものであり、血液供給が不安定になっていることがわかる。



(図1)16～18歳の男女、献血方法別献血率

よって将来的に血液が不足するのを防ぐために、人々の血液供給を安定化させる一つの手段として、日本政府は献血制度を、現在アメリカなどで採用されている売血制度に変更すべきだと私は考える。

本探究では、竹園高校生の献血率を調査して若年層の献血率の低下を確認し、売血制度には現在採用されている献血制度にはない、若者の意欲を増加させる魅力があるという仮説を立ててアンケート調査を行い、売血制度のメリットとデメリットを明らかにすることを目的とする。

2. 事前調査

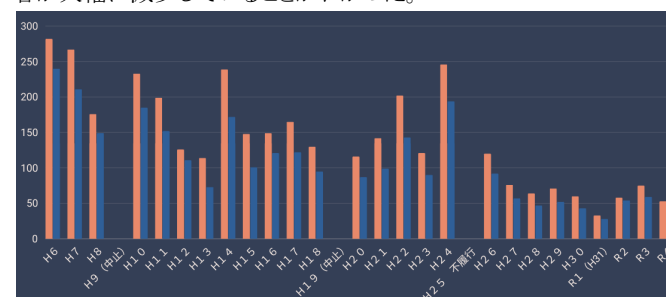
茨城県立竹園高等学校での第2学年献血率調査

1.はじめにで述べたように、全国的には若年層の献血率は低下している。また、竹園高校では毎年第2学年を対象に献血バスが学校に訪問して生徒に献血の協力をしてもらっている。この事業における献血率のデータを集めて竹園高校生の献血者数も図1の全国平均の値と同様に減少傾向にあるのかを調べた。

竹園高校の保健室に保管された献血の協力の申込者と実施者のデータから傾向を明らかにする。献血の協力の申込者と実施者をそれぞれ調べる。昭和62～平成5年度までは高校3年生も対象に含まれていたため除外し、平成6～令和4年度のデータを収集の対象とした。な

お、1年間に複数回行われている場合、すべての場合で一ヶ月以上の間が空いていたため同一人物が複数回献血が可能と捉えその年の献血実施者数をその年に行われた献血事業の回数に割ることで平均化してグラフにまとめた。

年によって一時的な増減はあるものの、平成6年は予約者282,実施者240に対して令和4年は予約者53,実施者45であり全体的には高校二年生の献血予約者と実施者が大幅に減少していることがわかった。



3. 献血制度、売血制度のモチベーション比較用アンケート、仮説

現在、日本では売血制度は禁止されている。売血制度とは利潤を求める民間の血液銀行が血を買うことで血液を集める制度のことであり、1950年代から行われ、1990年に完全に廃止された。売血制度が廃止された理由として、体の一部をお金に換えることが倫理的に問題だとされたことがあげられる。しかし、その倫理的問題を一度無視した場合、当時の売血一回あたりの金銭的報酬、1600～1700円は現在の価値で10000～13000円程度であり、血液提供者が相当な金銭的利益を得ることができるといのは意欲を増加させるメリットの一つと捉えられる。よって売血制度に変更された場合、竹園高校生の血液を提供する意欲が増すと考えられる。これが正しいのかをアンケートで調査した。

3.1. 実施方法

Google Formsを利用して竹園高校の第1、2学年にアンケート調査に協力してもらい。質問は一人につき9種類行う。(n=99)

～質問内容～

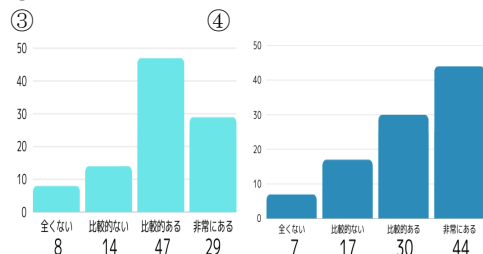
- ①これまでに献血を一度でもしたことがありますか。
- ②将来、献血を一度でもするつもりがありますか
- ③**現在実施されている『献血制度』の場合**血液を提供する意欲はどのくらいですか。
- ④**今後もし『売血制度が』実施される場合**血液を提供する意欲はどのくらいですか。
- ⑤現在の献血制度が『売血制度』に変更された場合あなたが血液を提供したいという意欲は変わりますか。
- ⑥問5でその選択肢を選んだ理由はなんですか。
- ⑦もしあなたが売血を行い、3000円程度のお金を報酬として得た場合、そのお金を何に使いますか。
- ⑧.あなたが月に保護者にもらうお小遣いはいくらですか。
- ⑨現在のお小遣いの金額に対して不満がありますか。

3.3 結果

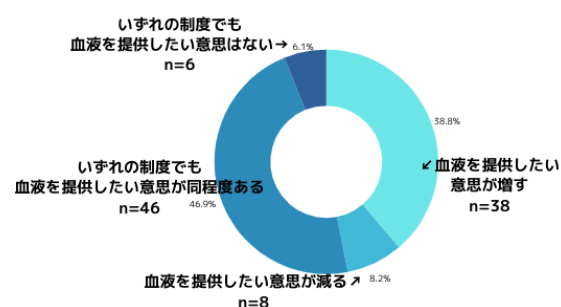
⑦⑧⑨の質問に関して、お金を使う目的やお小遣いに対する不満などと、売血制度に対する意欲との相関関係を調べるつもりだったが、特に相関関係が見られなかったため、今回は①～⑥までを取り上げる。

①ある…12人 ない…86人

②ある…80人 ない…18人



⑤



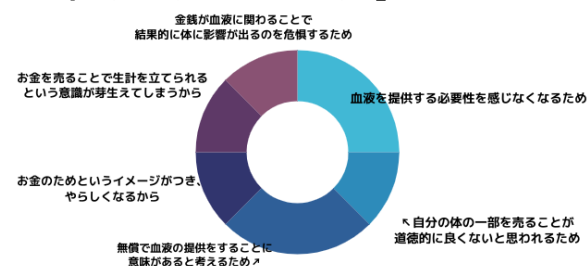
⑥-1『血液を提供したい意思が増す』人の理由 n=38

献血の義務感がなくなり行きやすくなるため

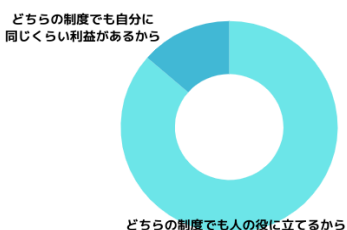


ランダムな景品ではなく金銭的利益を得られるため

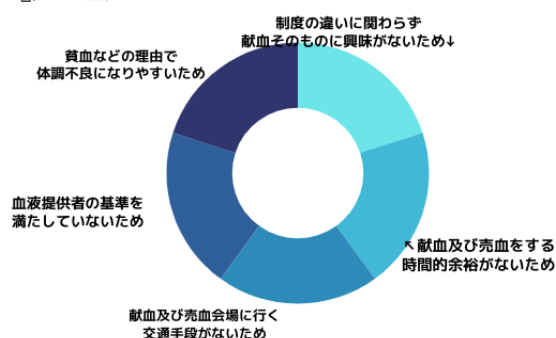
6-2『血液を提供したい意思が減る』人の理由 n=8



6-3『いずれの制度でも意思が変わらずある』人の理由 n=44



6-4『いずれの制度でも血液を提供したい意思がない』人の理由 n=5



4. 考察

2.より竹園高校生は全国平均と同じように献血率が低下していることがわかった。

3.では、①②から今は献血をしたことはないが、将来したいと考える人が多いことがわかった。

③④⑤から献血制度より売血制度のほうが意欲を持って血の提供をしたいという人が多いことがわかった。

6-1から金銭的利益を得られることに注目している人が大多数だったが、献血の義務感がなくなりいきやすくなる人も少数いた。

6-2では実利よりも個人の価値観を重視する人の意見がわかった。

6-3ではどちらの制度でも人の役に立てると考える人が多くいるため、売血制度を採用した場合も急激に採血者が減ることはないことがわかった。

6-4では制度に関わらず対応すべき問題がわかった。

5. 今後の課題

回答者数、特に⑥のそれぞれの質問の回答者数が少なく、説得力があまりなかったため、今後更に大規模なアンケートをやりたいと思う。

6. 謝辞

本探究の遂行に当たり、たくさんの人にアンケートや調査にご協力いただきました。ここに深謝の意を表します。

参考文献

厚生労働省「若年層に対する献血推進」1頁

<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/2-4.pdf>